

令和5年度 第2回 市川市地域ケア推進会議 会議録

1. 開催日時

令和5年10月11日（水） 14時00分～15時30分

2. 開催場所

全日警ホール（市川市八幡市民会館）（市川市八幡4-2-1）

3. 出席者

【委員】

山下会長、大野委員、橋本委員、岸田委員、山本委員、菊田委員、篠原委員
水野委員、横山委員

（欠席者6名）

【市川市】

奥野地域包括支援課長、ほか

4. 傍聴者

0名

5. 議事

- （1）前回までの振り返り
- （2）各団体からの「居場所」に関するご提案
- （3）高齢者サポートセンターとの意見交換
- （4）次年度に向けての方針（案）
- （5）その他

6. 配布資料

（会議当日配布資料）

- ・資料1 : 令和5年度第2回会議次第
- ・資料2 : 令和5年度第2回地域ケア推進会議資料
- ・資料3 : 地域ケア推進会議高齢者サポートセンターご意見一覧

7. 議事録

(午前 14 時 00 分開会)

発言者	発言内容
山下会長	<p>居場所づくりのテーマは今回が最終回です。振り返りをした方がいいと思いますので、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">議題（1）前回までの振り返り</p> <p>前回の会議では、居場所の概念を振り返り、サードプレイスや、通いの場に対する国のスタンスが変化してきたことも踏まえ、居場所や通いの場を類型ⅠからⅢまでに区分する考え方についてご紹介しました。</p> <p>類型Ⅰは、これまで想定したような場所だけではなく、「個々を取り巻く多様なつながり」を示しております。類型ⅠからⅢまでの各類型の場所の把握及び活用は、今後より一層重要性を増すと考えられております。この領域に当てはめると、市内には既に“多様な居場所がある”と考えましたので、居場所へのアクセスを向上する点に絞り込み、「情報提供」「移動の支援」「参加の後押し」という観点から、市の取り組みをご紹介するとともに、各団体により、意見交換を行いました。その後、改めて各団体に対して、居場所について現在取り組んでいることや、今後取り組めそうなことのご提案をいただき、まとめました。</p>
山下会長	<p>ありがとうございました。研究的な概念というよりも、実際市川市でこれまで作られてきた居場所というものが、どういう機能を果たしているのかということ整理しながら、前回の振り返りというスライドができているのだらうと思います。コロナの影響もありますが、孤立や孤独を抱えてる方もいらして、そこに貧困や、家族の課題があるといった方で、居場所だけでは解決しない事もありますが、居場所が重要だということを高齢者サポートセンターの方々は課題としてとらえています。私たち委員の中には、居場所自体はあるけれども、どのようにその居場所を市川市の中に作っていくかというところまでまだ議論に至ってないのが、実際のところだと思います。</p> <p>各団体で居場所についての提案を考えてきてくださいました。まずシルバー人材センターよりお願いします。</p> <p style="text-align: center;">議題（2）各団体からの「居場所」に関するご提案</p>
菊田委員	<p>シルバー人材センターの菊田です。</p>

菊田委員	<p>現在の取り組みとして、多くの方に知っていただくということで、いろいろな媒体を使って宣伝しています。実際に地域共生課を通して、入会説明会の記事を載せていますが、広報を見る方が一番多いのかなと感じています。最近ホームページを一新しまして、オンライン入会を導入しています。一度ホームページを覗いていただいて、一步踏み出していただければと感じています。地域別に入会説明会をやっておりまして、市川、本八幡、行徳、南行徳の4ヶ所、追加で大野地区や少し遠い地区でもしています。お声をかけていただければ地域別にやることも可能と思っています。女性限定の説明会をやっていまして、性別で分けたくはないのですが、年配の方だと女性だけの方が気軽に参加できるということもありますので、そういった形もとっています。</p> <p>できそうなこととして、退会した方の後追いはしていないので、居場所の情報提供ができればいいなと思っています。コロナ前は植木の剪定講習会を市民向けにやっていて、それをきっかけに入会していただくということもありましたので、また開催したいなとは思っています。以上です。</p>
山下会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>生活支援体制整備事業との関係で、千葉県的生活支援コーディネーターの研修講師を3、4年続けておりましたけれど、高齢者のサポートにおいて居場所を提供するのは、通いの場を作るだけではなく、小銭稼ぎは最強の介護予防だとお伝えしていました。お金を稼ぐということも実際ニーズがあり、この人材不足の中で非常に重要なので、働く場をどう作っていくかというのが、主な課題だと思っています。</p> <p>次に市川市社会福祉協議会よりお願いします。</p>
山本委員	<p>市川市社会福祉協議会の山本と申します。</p> <p>現在の取り組みということで、市川市の場合は、重層的支援体制整備事業として「よりそい支援事業」を今年の7月から行っています。今まで、生活支援体制整備事業の生活支援コーディネーターとして4人のコミュニティーワーカーがおりましたが、7月からはコミュニティーソーシャルワーカーと名前を変えて活動しています。今までとそんなに大きくは変わらないのですが、世代や属性を問わず支援をしていくということで、市川市と協議して、今進めているところでございます。</p> <p>サロンですが、市川社協で進めているサロンが110ヶ所ほどございます。コロナ禍で、まだ再開ができていない、モチベーションが上がってこないというようなサロンもいくつかございますが、大体8割以上のサロンが再開しているところです。まだ様子を見ているサロンについて、支援をどうしていこうかというところを協議しています。また、再開はしたものの、ある程度固定化しているところが多いので、新たな参加者を増やすに</p>

山本委員	<p>はどうしたらいいかというところも、高齢者サポートセンターの方と協議をしながら進めていきたいと思っています。</p> <p>あと、ボランティア活動への参加支援をより一層強めていきたいと思っています。具体的には、ボランティア育成や、講座、研修会を開催して、1人でも多くの方に活動に興味関心を持っていただくことが大事ではないかと思っています。今年度は、地域包括支援課と共催でボランティア講座を開催しているところです。今まで地域活動を創出するための担い手育成の講座を別々にやっていたのですが、今年度からは共催でやってみて非常に良い効果的な内容ではないかと思っています。</p> <p>最後に、地区社協と言って、地域を推進している団体の支援を社会福祉協議会で行っていますが、信篤・二俣地区で、地区社協初めての「こども食堂」が開設されます。今週の金曜日から定期的に行われる予定で、場所は、信篤・二俣地区の原木や高谷、二俣方面の東京経営短期大学や特別養護老人ホームです。特養の地域交流スペースをお借りして、子供さんに集まっていたら、後々は入所されている方にも一緒に参加できるようになればというところで、今始めているところです。こちらの「こども食堂」は、地域食堂のような感じで、大人の方も参加できますので、居場所の一つになっていくのではないかと思います。</p>
山下会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>「重層的支援体制整備事業」はご承知かと思いますが、社会福祉法の改正により取り組むこととなりました。キーワードが“参加”と“相談”と“地域づくり”です。参加というのは、ボランティア活動等も含まれますが、就労や社会参加はかなり大きなテーマですし、社会福祉の領域だけではなく産業や、地域の文化や風土とかに触れていくことになると、高齢者はそれぞれ地域文化を担ってきた方なので、それを一緒に作っていくといった発想になります。一方で、ひきこもりや複合的な課題があって社会福祉にたどり着けない方々が多く見られる中に、高齢者の方も当然家族構成としていらっしゃるのでは、高齢者サポートセンターだけではなく、いろいろなところとネットワークを組みながら考えていくということになります。コミュニティソーシャルワーカーが寄り添うのは、厳しい局面に寄り添う意味だとすると、そういう仕事をされる一方で、今110ヶ所あるサロンが8割再開されようとしていて、もう1回やってみようといった気持ちをどう作っていくかといった、その両方を視野に入れていると思います。社会福祉協議会の奥深さというか、引き続き、いろいろな展開をされると思います。次に、生活協同組合コープみらい篠原委員、どうぞ。</p>
篠原委員	<p>生活協同組合の篠原です。</p> <p>我々もコープみらいの組合員活動の中で「みらいひろば」という、サロ</p>

<p>篠原委員</p>	<p>ンのような居場所づくりを展開しております。お知らせは公式のホームページや、市川市につきましては千葉一区ブロックのニュースに掲載しております。「みらいひろば」は県内ですと約60会場、市川市内では3会場、コープみらい市川店のコープルームで開催しております。</p> <p>この他、京葉ガス様のテラス、妙好寺様の境内の部屋を借りて開催しております。組合員だけでなく、どなたでも参加できますという形で、呼びかけをしているところです。お知らせは、宅配中に配布するチラシに掲載したり、ブロックニュースも広く店舗に配布したり、市内ですと市民活動支援センター2か所で配架のご協力をいただいているところです。地域包括支援センターや社会福祉協議会、市民活動に繋がりのある施設に「みらいひろば」のお知らせ等の協力もいただいで、徐々に増えてきたかなという印象があります。あと、「くらしの助け合いの会おたがいさま」ということで、組合員同士の援助活動で困った時に組合員で助けあう活動をしています。例えば病院や買い物等ちょっと1人では外に出られないというような方を、付き添いという形でサポートさせていただいております。ここでは書いていませんが、車での活動ができないというところが一つ難点ではありますけれども、一緒にタクシーに乗って病院まで行くとか、交通機関を使って一緒にその場所まで移動して、自宅まで送り帰ってくるといった形の移動手段として、お互い様の会員登録をして、助け合いをしていただくというのが一つあるかなと考えているところです。できそうなところの欄にある「支え合いネット」は、組合員活動や、宅配店舗のインフラのところで登録できる事業があると考えておりますので、登録に向けて前向きに検討したいと考えております。</p> <p>また、団体に対しての助成金の事業も行っております。コープみらいと社会活動財団がありますけれども、この9月から11月2日まで、助成団体を受け付けています。移動支援を行っている団体に対して助成金という形で応援もできるのではないかとということで記載させていただきました。</p> <p>あと、これは提案といいますか、子育て支援、高齢者支援の各シーンで情報を調べながら、コープみらいがお役に立てるのではないかとということで、ご提案していくときに、市役所やいろいろなところで見える情報が、どうしても縦割りになっているなという印象があります。市内の情報を調べるときに、サロンや居場所がまとまっている冊子や、ウェブサイト等があると、我々も調査しやすく、そこに直接アクセスできると考えられましたので、記載させていただきました。以上になります。</p>
<p>山下会長</p>	<p>ご提案をいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>暮らしの助け合いの部会は古くからありますが、移動の問題、課題にも取り組まれているということで、こちらも来年度以降のテーマに近づいていると思います。</p>

山下会長	次にリハビリテーション協議会よりお願いいたします。
横山委員	<p>市川市リハビリテーション協議会の横山と申します。</p> <p>まず、協議会としては、地域包括支援課と一緒に、「住民主体の通いの場」に関しては5年間、「はつらつシニア応援講座」に関しては2年間実施しています。「住民主体の通いの場」というのは、地域の中のサークルだったり、団体に対して、認知症予防やロコモ予防といった介護予防の話をする場でして、「はつらつシニア応援講座」は、自分の健康とか今後のことで不安になった人たちを市内14ヶ所に集めて介護予防の話や体操、グループワークを行っております。「住民主体の通いの場」はロコミで、リピートが多かったり、「はつらつシニア応援講座」はアンケートで高評価をもらっています。こちらの実施と情報提供に関してはもっと参加者を促していきたいと思っております。</p> <p>以前、社協からご依頼があったのですが、車椅子の使い方研修も実施しまして、車椅子を使ったことがない方や、正しい使い方を知らない方が意外に多いです。今後課題になってくる移動支援というところ、例えば歩き方の歩行介助や、福祉用具の種類などそういった情報提供とか、研修とかもできるのではないかと考えております。「オレンジスマイルいちかわ」のイベントで、リハビリブースを設けロコモチェックであったり、認知機能のチェックを、楽しみながらやっていくこともできると考えています。</p> <p>他には、協会のホームページがありまして、その中にリハビリ職のいる事業所マップがあります。会員の中には、行徳方面で失語症の人のためのカフェを実施していますので、そういった案内を出すこともできますし、別の会員の中には高齢者や、生活困窮者の方と一緒に幼稚園の公園で草刈をしながら、幼稚園の方と触れ合う場を実施してる人もいますので、そういった情報を提供することもできます。地域の中のいろいろなNPO法人、例えば、子供の遊び場を公園で行っているみたいな情報を提供することもできるので、何か居場所を提供できるかなと考えております。以上です。</p>
山下会長	暮らしを支えるリハビリテーションは非常に重要ですし、移動支援にもつながる貴重な発表でした。
	医師会、歯科医師会、薬剤師会は欠席ですので、事務局よりまとめて報告をお願いします。
事務局	事務局から、歯科医師会の秋本委員からいただいたご意見を代読させていただきます。
	歯科治療では、訪問診療で高齢者と対面することが多くありますが、目的は歯科治療に限定されてしまうため、取り組みを提案、企画する場面に

事務局	<p>は遭遇しません。しかしながら、私自身の考えでは、「自宅という居場所」に歯科医師が訪問診療に伺うことで、居場所は変わらないが、家の中の環境、歯科事業以外での他愛もない会話や第三者がその場所に存在することなど、こういった環境が変わることで、一時的でもいつもとは違う居場所になるのではないかと思います。</p> <p>こうしたご意見をいただいております。</p>
山下会長	<p>事務局の方から何かコメントはありますか。</p>
地域包括支援課長	<p>訪問診療を通じて、日常生活の場であるご自宅の中に第三者が入って、一時的とはいえ非日常的な時間、社会参加或いはいつもと違った居場所にも繋がると、そういったお考えをお持ちで患者の方に接していただいているのは非常にありがたいなと思っております。</p> <p>私どもも、家が居場所になってる方もいらっしゃるというご意見もいただきましたので、そういった状況も踏まえまして取り組んでいければと思っております。</p>
山下会長	<p>福祉の世界だと居場所はどちらかということと社会的居場所ということで、自宅はあまり想定していませんでしたが、居場所が家というのは、改めてなるほどと思いました。むしろ訪問するお医者さんが取り組むこと自体が重要なので、土足で踏み込まず関わってくださるというメッセージは強いと思います。引き続きお願いします。</p>
事務局	<p>続きまして、薬剤師会の牧野委員より寄せられたご意見を紹介させていただきます。</p> <p>現在の取り組みとしまして、地域の方から個別に依頼があった地域イベントのご案内の掲示、薬用植物園を見学するバスツアーを主催、自宅への配薬は居宅療養管理指導等の契約を結ぶことで可能となるというご提案をいただいております。在宅医療推進は薬剤師会として取り組んでいるということです。</p> <p>今後できそうなこととして、薬剤師会から当該地域の会員薬局にお出かけ情報等の掲示をお願いいただけるとご提案をいただいております。薬局内に地域イベントの掲示を行っているが、地域の方から個別に依頼があっで掲示しているので情報量が少ないといった課題もあります。薬剤師会から地域の会員薬局に「きょういくところ」の掲示をお願いすることは可能というご提案をいただいております。このことにつきまして当課より医師会、歯科医師会、薬剤師会と協議させていただきまして、現在は「きょういくところ」の配架希望をお申し出いただければ、配架いただけるような体制となっております。高齢者の方がしばしば足を運ばれる診療所ですと</p>

事務局	<p>か歯科医院、薬局に居場所のリーフレット等が置かれまして、多くの方に居場所のご案内ができるように、引き続き取り組んで参ります。薬剤師会のご提案に戻りますと、薬用植物園を見学するバスツアーを主催しており、地域の方との交流を積極的に行っているとのこと。バスツアーについては、昨年度「閉じこもり防止」をテーマに行った本会議でも情報提供いただきましたが、コロナ禍で中止となっていたバスツアーが再開しまして、来週開催されると伺っております。報告は以上となります。</p>
山下会長	<p>お薬に関心を持っていくということも、実は重要であると思います。次に、市川市福祉公社よりお願いします。</p>
水野委員	<p>市川市福祉公社の水野です。よろしくお願いいたします。</p> <p>訪問介護事業所としてできそうなことは、やはり通いの場だと行くのが不安という方には、移動支援として、ヘルパーさんと一緒に行ってくれないかというところになると思いますので提案させていただきました。できればこの移動支援、市川市内全域で盛り上げていきたいなと思うのと、市内の訪問介護事業所ができる仕組みがあれば、お手軽な利用料金で一緒にできればと挙げさせていただいております。できればデイサービスは使いたくないという人たちも、ヘルパーとして対応できればなと思い、提案させていただきました。以上です。</p>
山下会長	<p>市川市の介護保険事業計画の策定にもかかわらせていただいておりますけど、介護サービスの供給量とか、訪問介護の事業所の経営の問題だとか様々なことが起こっている中で、即座に計画に反映することは難しいかもしれませんが、訪問介護とか移動支援、障害の方も含まれるかもしれませんが、人材不足の中で、目の前の課題について即対応をするという仕組みの中では、一律的にいかないかもしれませんが、一部有料で行うという発想を入れていかないといけないことを踏まえて、期待していきたいと思っております。</p> <p>市川商工会議所よりお願いします。</p>
事務局	<p>商工会議所の鎌形委員は、本日別の会議が重なった関係で欠席のご連絡いただいておりますので、事務局からご意見の概要を代読させていただきます。</p> <p>コロナ禍が落ち着いてきて、高齢者の外出意欲も戻ってきましたが、足腰の悪くなった方を誘っても、「迷惑をかけるから」と言って、なかなか連れ出せない。出て来られなくなった人の中には、何回も同じことを言うなど、認知症の始まりが疑われる方もいらっしゃるが、ご家族が認識しているかもわからず、周囲はどう対応していいのかわからない。これは委員</p>

事務局	ご自身が、ご家族の認知症に気づいたときのご経験談なんですが、ひとり暮らしの方の認知症に早く気づき、治療につなげる必要がある。こういったご意見をいただいております。
山下会長	<p>ありがとうございました。早期発見が重要なのもわかっているところですが、その発見と気づきの仕組みをどのようにして作るかというのもテーマです。</p> <p>自治会連合協議会よりお願いします。</p>
岸田委員	<p>市川市自治会連合協議会岸田と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>現在の取り組みということで、町会・自治会は、市からの情報回覧掲示をしています。市川市の自治会連合協議会というのは、今年の3月31日現在、市内の世帯数は、25万4842世帯、人口は49万2489人で、自治会が226団体、自治会の加入率が52.1%です。市内に14の連合自治会を構成しております。社会福祉協議会にも協力をしておりまして、ご存知かと思いますが、毎年6月にいちかわ社会福祉だよりが各家庭に配られます。社協の一般会員として一口300円です。この300円を集めたものを社協にお届けして、そのうちの40%がそれぞれの地区の活動資源として戻ってくるという形になっています。従いまして、皆さん団体のためにということで一生懸命参加しています。町会・自治会は回覧掲示が主体ですけれども、居場所を希望している方にできれば紹介、また社協の一員として募金に協力していただく、町会自治会に協力していただく、ということが運営を促す一歩となるかと考えています。町会・自治会に未加入の方が、助けてくれとなっても、なかなかすぐに対応できない部分があるので、希望されるのであれば、町会・自治会に協力していただくとありがたい。前回、市役所の各情報を回覧掲示できればと思っていましたが、その地域特性に合った情報を流してもらうのが、回覧掲示で有効的に動くのではないかなと考えておりますので、そこにご協力をしていただければと思います。</p>
山下会長	ご提案もありがとうございました。できそうなことの「きょういくところ」等の居場所情報回覧、掲示についてのご協力の提案について事務局、いかがでしょう。
事務局	<p>ご提案いただきありがとうございます。地域包括支援課です。</p> <p>「きょういくところ」は、住民の方が主体になって活動している通いの場を集約したリーフレットとなっており、介護予防となる高齢者の社会参加の促進にご活用いただければと考えております。町会自治会へのご協力につきましては、10月下旬から地域ケアシステム推進連絡会の方に担当者が出席させていただきまして、「きょういくところ」の作成趣旨等をご説</p>

事務局	<p>明させていただいたうえで、参加されている町会自治会の皆様に回覧掲示のご協力をお願いしたいと考えております。連絡会には地域に関わる多くの機関の方が出席されておりますので、私どもからの説明だけではなく、ぜひ、地域の声を聞かせていただけたらと考えております。</p>
山下会長	<p>ありがとうございました。 では、介護保険事業者連絡協議会よりお願いいたします。</p>
橋本委員	<p>介護保険事業者連絡協議会の橋本です。よろしくお願いたします。 私達は介護保険サービスの協議会になっておりますので、現在、デイサービスや訪問ヘルパー、訪問看護などの施設のサービスとしての居場所の情報発信になると思います。各サービスの車での送迎というのはデイサービスやデイケアであったり、ショートステイでも送迎いたします。また、介護付きタクシーの情報提供もあるかなと思っています。できそうなことになりましたが、この地域にはこういうものがあるよっていうのを、高齢者がポロポロっと話をすることがあると思うので、その時にこういうものもあるみたいだよと、各職員が話してくれるとちょっといいかなと思っています。 また先ほど社協からボランティア育成の話がありましたけれども、施設やデイサービスにはスペースがあったりするので、講座を実施する場所として使っていただいてもいいのかなと思っています。</p>
山下会長	<p>なかなか介護保険事業者の協議会の中では居場所をテーマに議論するのは難しかったのではないかなと思われまけど、社会貢献の一環で居場所を作るという手もあるかもしれません。むしろ今のこの介護保険サービスの状況をみて介護サービスの利用の仕方とか、少し観点を作って議論していくとまたアイデアが出るかもしれないということですね。 市川市介護支援専門員協議会よりお願いいたします。</p>
大野委員	<p>市川市介護支援専門協議会の大野です。 私たちケアマネジャーは、今ご説明があった市川市介護保険事業者連絡協議会に事業者として参加して、こちらの市川市介護支援専門協議会の方は、ケアマネ個々で加入する団体となっております。 まず現在の取り組みとしては、高齢者サポートセンターに所属しております主任ケアマネや普通のケアマネからの情報で、各事業所にパンフレットを配架させていただいたり、移動支援では情報提供、介護保険サービスでの移動支援及び自費タクシーの予約をしております。あとは障害者手帳をお持ちの方もいらっしゃいますので、割引だったり、タクシー券、寝台車の助成等の利用の提案だったり手続きをさせていただいています。</p>

大野委員	<p>居場所についてもデイサービスなど、国で決められているサービスを手配することと、第三者が自宅に行くというところも居場所になるという意味では、ヘルパーや、私達ケアマネジャーが月1回の訪問でも、今まで誰も入らなかった家庭の空気の流れを変えるっていうのもあると思います。今、結構問題になっているんですけど、介護されてる方と同居されているお子さんたちが、20代から60代の方でも、高校や中学を出てからひきこもりだったりとか、お仕事はされているんだけど介護する家での環境が整わない方がいます。関わってみておかしいよねとなったら、発達障害がわかっていたりしています。ケアマネが担当していた高齢者が亡くなった後に、引きこもりや発達障害の家族が残されてしまったら困るということで、高齢者サポートセンターに相談して、「そら」や「えくる」とも相談上、その家族に介入して、居場所を見つけていくことも入ってくると思っております。</p> <p>今後できそうなこととして、市川市介護支援専門員協議会は2年ほど前にホームページを立ち上げましたので、そこで情報提供や、高齢者サポートセンターからお声掛けをいただければ、介護者教室とか各ご家庭に情報提供等の案内もできるという話がありました。</p>
山下会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで一旦発表が一巡したのですが、ご質問等ございますか。</p>
事務局	<p>委員の皆様ご発表ありがとうございました。では議題3に進めさせていただきます。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">議題（3）高齢者サポートセンターとの意見交換</p> <p>高齢者サポートセンターには、居場所へのアクセスについて困っていること、共有したいこと、お願いしたいことなどについて事前にたくさんのご意見を頂戴いたしました。この中で、特に多くいただいたご意見について私の方からご紹介をさせていただきます。</p> <p>まず初めに、「いきいき健康教室」については、市が直営で実施していた体操教室であり、令和2年度に廃止しております。3つの高齢者サポートセンターからご意見がありました。「いきいき健康教室」に通っていた、また通いたいといったお話は、今も出ている。体操等のわかりやすい居場所、通いの場があると良い。有料の体操教室があるが、費用を負担できる人に限られる。もう少し費用負担が少なければ参加しやすいと思う。高サポ国分からいただきました。次に「いきいき健康教室」終了後、小地区で継続的に通える場が減り、活動をやめた人、介護サービスに流れた人が多くいた。ふらっと立ち寄れる場がない。お願いしたいこととして、</p>

事務局	<p>「いきいき健康教室」があった数に近い小地区での通いの場（住民主体、民間委託を含む）が必要。高サポ宮久保・下貝塚からいただきました。最後に「いきいき健康教室」に通いたいという話は今も聞かれている。高サポ信篤・二俣からいただいております。</p> <p>事務局からは以上です。</p>
山下会長	<p>一つ目が「いきいき健康教室」のことですけれども、事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>現在も「いきいき健康教室」に通いたいというお声があることは存じておりますが、かつての「いきいき健康教室」の復活について、求めているものがその方によって異なると考えております。健康の維持向上の目的の方、他に行くところが見つけれないので誰かと交流したいという目的の方、そのようなニーズのある方はぜひ、先ほどの「きょういくところ」を活用して、自分に合った通いの場を見つけていただいたり、或いは仲間と一緒にそういった場を作っていただきたいなと考えております。</p> <p>市としては、近所だったら通えるという方も参加できるような、住民主体の「みんなで体操」を地域介護予防活動支援事業として現在実施しております。新規立ち上げのための体験会から継続までをサポートしていただき、宮久保・下貝塚の地域ケアの拠点では体験会をきっかけに、独自の体操が毎日開催されるに至っております。このように、できる限り身近な場所で誰でも長く通える通いの場づくりの支援を介護予防の施策として行って参りたいと考えております。</p>
山下会長	<p>委員の皆さんと高サポの方、ご質問ありますか。委員の方向何かありますか。横山さん何かありますか。</p>
横山委員	<p>先ほど「いきいき健康教室」の話が出ましたが、市川市リハビリ協議会では「はつらつシニア応援講座」というのがありまして、いわゆる自分の体のことが心配になって集まるんですけど、お互いを知らない人ばかりですが、普通にグループワークをすると、すごく盛り上がります。そこでは情報共有や自分の悩み相談ができるというのがあって、例えばボランティアセンターへつなげられるとか、いろいろできるというのがあります。健康教室を提供してしまうと、居場所にはなるけれども、デイサービスのよう、そのサービスがないと行かないということになるかもしれない。逆に話せる場があれば、「みんなで体操」につなぐこともできるんじゃないかと、この話を聞いていて感じました。</p>
山下会長	<p>要は、「いきいき健康教室」に卒業を作っておけばよかったというか、</p>

山下会長	<p>有期にすればよかったかもしれないですね。他の自治体でも同じ議論がありまして、すごく頑張ってた保健師さんの苦悩も議論したんですけど、今までのやり方に固執しないで維持できるかという話と、市民が別途自己負担でできるかという、場所の問題だとかはきっとあるので、基盤整備に関連する地域支援というのは、行政の役割として必要なのだろうと思います。</p> <p>次は、サロンについてでしょうか。</p>
事務局	<p>続きましてサロンについてご紹介します。</p> <p>高サポ市川第二からいただいております。サークル活動やサロンは誰でも参加できるとあるが、初めて行った方の中には入りにくい雰囲気だったと感じたり、メンバーが固定されていると感じたとの声があった。また、近所でこのようなところがあると知らなかった。デイサービスの希望があったが認定に時間がかかるため「きょういくところ」を見せたところ、コロナ前に通っていた教室があった。コロナで休みだったが再開したことを知らなかったとのこと。同様に再開を知らない人がいるかもしれないと感じた。</p> <p>続いて高サポ国府台からは、現在も地域にあるサロンを知らない高齢者も多い。男性が参加したいと思う内容が少ないせいで、男性高齢者は興味がないのではないかと。担当地区の団地住民から住民同士の交流の場や機会がないとの声があり、社協とともに「サロン立ち上げ説明会」を開催したが立ち上げに至らなかった。一方、町内会館での麻雀や囲碁など、趣味の会は発足、継続し参加数も増加している。「高齢者がやりたいことは何なのか」から考える必要があると思う。地域にサロンがもともと少ない上に、コロナ禍で二つサロンが終了した。これまで閉じこもり予防に対してデイサービス以外に、サロンを紹介することも多かった。自分で通えるサロンが少ないと、介護保険や総合事業へつなぐ流れになりがち。</p> <p>続いて高サポ市川第一から、サロン等の立ち上げ支援をすることも、担い手として積極的に参加する方はほとんどいない。高サポ大柏からは、既存のサロンから体操の講師依頼があった際に地域密着型デイサービスへの指導者の派遣をお願いし、以降直接やりとりをしてもらうように調整した。そうしたデイサービス側の地域貢献に対して評価される仕組みがあるといいと思う、といった意見がありました。事務局からは以上です。</p>
山下会長	<p>各地区からあらかじめ意見をお寄せいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>他にも皆さん、ご質問ご意見ありますか。山本委員何かありますか。</p>
山本委員	<p>これも永遠の課題なんですけど、例えば、囲碁将棋とか、明らかに男性</p>

山本委員	<p>の方が多いであろうサロンでも、やがて女性が増えていくと、どうしても女性の方が中心になり、男性の方がなかなか参加してきていただけないと。やはり男性の方は、ある程度目的を持って役割がないと参加をしていただけないのかなと。サロンの研修会や集まりを年1回、代表者の方に集まっていたら、ご意見を伺いますと、やはり女性の方が中心で、男性の参加を促したくても現状そんなに進んでいかないというところもございませう。サロンを運営されている方にもお願いをしているところなんですけう、ぜひ男性の方には少し役割を持って、立ち位置を少し意図的に与えてあげると、サロンに参加をしていくのではないかみたいな議論をしているのですが、依然として進まないというところがあります。参加者の固定化についても、これは良い面でもあると思うんですが、新しい方が参加しづらいということがあろうございましたら、丁寧なフォローが必要なのかなと思っております。</p> <p>あと、体操のサロンが幾つかありますけう、やっているとこはどこも人気です。私が担当している地区でもコロナ明けに再開したサロンで、積極的にPRしてなくてもどんどん人が増えています。今は会場から溢れるほどの感じですね。二つの公民館で開催されているんですが、やはり市の「いきいき健康教室」で講師をされていた方をお願いしているので、参加されている方も非常に満足度が高い。だんだん口コミで増えていくというような状況ですので、「いきいき体操」で退任された方というか、講師でまだやれるという方がいらしたら、ぜひご本人さんの了承をとっていただけて、ご紹介いただけるとありがたいなと。地域の方には、講師で悩んでいるところもありますのでこれは行政に対してのお願いでございます。</p> <p>以上です。</p>
山下会長	<p>ありがとうございました。1995年あたりに、全日本全国社会福祉協議会で「ふれあいいきいきサロン」という提案をしたんですが、その時の事例の多くが女性たちが作っているのけう、男性が作ったという人があまりないです。だから男性がどのようにサロンを作っているかというのを掘り起こせば男性のサロンも可能かもしれないですが、そのサロンに当てはめるかどうかも含めて考えていくことも必要かもしれないです。男の料理教室とか、オトコのサロンとかいろいろ被災地等でも、試したりもしているところですが、どうするかもうちよつと考えてもいいかもしれないですね。</p> <p>他に皆さんご意見ご質問ありますか。</p>
大野委員	<p>今、お話を聞いたサロンができた年代がちょうど私が福祉に携わったころなのかなと思っております、あの頃は明治生まれの方がいて戦後の男性の人口が少なかった時代だったと思っております。担当してた割合も男性が少なく元</p>

大野委員	<p>気なおばあちゃんが多かったイメージがあります。今は介護保険が始まって23、4年経ちますので、男性女性の人口割合もほぼ同じになってきたかなと思ってます。</p> <p>それと、その頃の高齢者が求めていたもの、例えば流行りの歌だった、美空ひばりさんだったりってというのが、今の70代の方はアリスや山口百恵さんだったり歌う歌も変わってきているので、同じものをずっとサロンでやり続けても駄目なのかなという感じがありました。例えば、今行ってる高齢者の方や、あと5年したらサロンに通いたい私達ぐらいの年代とか、何が好きかっていうところを改めて考えていけないといけないのかなと。民間で行っている、おばあちゃんたちがテレビゲームをしているというのもありましたので、介護保険のデイサービスも含めて考え方を一新していかないといけないというのは感じました。</p> <p>以上です。</p>
山下会長	<p>ありがとうございます。わくわく感とか、新しいものを取り入れるとか、そういう話も大事ですよ。</p> <p>そうすると高齢者だけで集まる場でいいのか、場の作り方から変わってくるかもしれない。さっきのリハビリは別ですが、サロンは高齢者だけがお話しするという別の空間で情報交換するかもしれないので、モデル的なものを少し誘導するのもありかもしれないですね。その中で、移動が大変だから場所に行けないといった意見も高齢者サポートセンターから出ているようなのでお願いします。</p>
事務局	<p>続きまして3点目として、居場所への移動支援についてお寄せいただいたご意見を紹介させていただきます。</p> <p>まずは車での送迎についてですが、知人が車で送迎できなくはないが万一事故等があった際、手間賃など好意では補いきれない、何か他の仕組みづくりが必要だ。近頃タクシーがなかなか捕まらないと聞くことが増えた。車等の送迎の大きな移動手段が必要。といったご意見を寄せられています。続いて、認知症の方の付き添いの送迎について、徒歩は可能なADLだが、道がわからなくなるため送迎が必要。地域活動に初めて行く人も馴染めるように、地域活動サポーターのような人材を育成できたらいい。居場所があっても認知機能が低下していて、一人で行くことができない方々がいる。居場所までの手段が必要。土地勘がなく、家族の支援が難しく1人で行けない。初回だけでも同行してくださる方がいるとありがたい。こういったご意見が寄せられています。</p>
山下会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>アクセス等について、高齢者サポートセンター自身の関わり方について</p>

山下会長	のご意見がスライドにありますので、説明をお願いいたします。
事務局	<p>高齢者サポートセンター自身の関わり方について、ご紹介させていただきます。</p> <p>高齢者サポートセンター職員が他のエリアの居場所へつなげにくいのはその内容や雰囲気を知らないせいだと思うが、高齢者サポートセンター職員は居場所の把握に割く時間はない。対象者と居場所へのマッチングは、SCの業務が行うのではと期待している。高サポが情報をキャッチしていないとそもそも情報提供ができない。情報提供するために、配布資料に載っていない情報や、担当地区、地域外も含めた情報が高齢者サポートセンター用の情報としてまとまっていることが必要。既存の居場所の詳細や特徴を高齢者サポートセンターで把握しきれていないため、きめ細やかなつながりができていない。また、公民館でのサークル活動などまで居場所の紹介場所を広げると情報が少ない。情報の集約やコーディネートの情報発信の媒体の多様性が必要だと感じる。個別のケースで一つずつ、つながりを完成させるまでにはそれなりの時間と労力を要する支援であることを理解して欲しい。介護サービスにつなげばよいのではなく、地域で地域住民として役割や交流が持てることが重要だと考えている。こういったご意見を寄せていただきました。</p>
山下会長	<p>高齢者サポートセンターは今後、生活支援コーディネーターの第二層もされるということで、これからのソーシャルワークというか社会福祉という、介護やヒューマンサービスの支援の発想が、暮らしを支えるリハビリとちょっと似ているかもしれません。個人の課題と地域の資源や地域の関わりを一体的にとらえて本人の生活に適合させたり、地域社会自体の変革を目指そうとする個人や家族の支援と地域づくり、具体的にやってみようという流れでいくと思います。それはそう簡単に解決しないことだとわかった上でそれを止めないっていうのが大事な発想なので、すぐ答えが出たり解決しなくても大丈夫なのでその発想をまず持つところから、第二層の生活支援コーディネーターを引き受けて作っていくと。高齢者サポートセンター自身の関わり方で前向きなご意見や、もう少し周りの基盤が充実していけばいいのにといったご意見も含めて、市川市の介護や、福祉が充実する礎になるのかなと思います。</p> <p>個人の力量とコーディネーターの力量と周辺の方々の力量と、利用者自身が私たちを使いながら自立して生きていけるかということと、家族関係の複雑さや地域の特性をわかった上で、まず何をするかといったら、地域の状況とか地域の支援にもう少し目を向けていくことに時間を割くということ、来年度の事業計画にぜひ入れていくことかと思えます。</p> <p>すごく時間がかかることなのでお1人でやろうと思わず、社会福祉協議</p>

山下会長	<p>会とかケアマネジャーの方と協働して、最初の立ち上げは大変だと思えますけれども、役割としては今申し上げたようなことが潜在的になされると感じているところです。</p> <p>さて残りの時間になりますが、来年度に向けた内容の合意形成をしたいところです。次年度の方針案について事務局からご提案いただきたいと思えます。よろしくお願ひします。</p>
地域包括支援課長	<p style="text-align: center;">議題（４）次年度に向けての方針（案）</p> <p>委員の皆様と高齢者サポートセンターの皆様には、居場所に関する課題抽出から意見交換まで多大なるご協力いただき、誠にありがとうございました。市としては居場所に関するこれまでの意見交換を通じて、今後もお一人お一人の興味関心に応じた多様な居場所への参加を増やしていきたいと、改めて考えています。市内には居場所や居場所となりうる資源が数多く存在していることを踏まえ、居場所そのもの、或いは居場所へのつながりを中心的な課題にとらえ、これまでご提案をいただいたところです。先ほど、高齢者サポートセンターの皆様からのご意見等から、居場所自体や居場所までの移動に関して、まだ様々な課題があること、居場所の情報把握や案内に向けたご提案もいただいたところです。</p> <p>これらを踏まえ、居場所に関しては、身近な圏域ごとの「居場所マップの作成」に取り組んではどうかと考えています。現在ある「きょういくところ」や「いちかわ支え合いネット」といった、情報の提供の仕組みをベースにしながら、それ以外の新たな取り組みや活動が、地域の中では徐々に生まれてきているのではないかと伺っております。また他市の事例では、薬局やドラッグストア、またスーパーマーケットとか、そういった民間の事業所のスペースも借りて、住民主体の居場所とする取り組みや、居心地の良いサードプレイスを増やしていこうといった動きも見られているところです。これらの取り組みは、市内全域一律でなかなか進められるものでもないと考えておりますので、各地区のお住まいの方々のニーズを基にその地域に合った場所や活動との組み合わせが重要と考えられます。</p> <p>次年度からは、先ほどもご紹介ご説明させていただいておりますが、各高齢者サポートセンターの方に生活支援コーディネーターに取り組んでいただく予定ですので、身近な15圏域や市内の東西南北の4つのエリア、そういった地域の方々のニーズに対して、不足する資源の把握や開発等を進めていきたいと考えております。そのために行政としては圏域での資源把握や資源開発が円滑に進むように、生活支援コーディネーターの動きをサポートすることとし、本日ご参加の委員の皆様のご所属する各団体にも圏域の情報や居場所など共有いただき、マップの充実に生かしていければと考えております。居場所の取り組みに関しては、来年度に向けて圏域ごとの</p>

<p>地域包括支援 課長 山下会長</p>	<p>居場所のマップづくりを進めていきたいという提案です。</p>
<p>地域包括支援 課長</p>	<p>ということで、この3回の第一層協議体の議論を経て、来年度各15圏域のエリアで資源のマップを作る、特に居場所について作ってみてはどうかということですので、そういう意見があったことを踏まえて、各高齢者サポートセンターと市の方で話し合いをされるかと思われませんが、この地域ケア推進会議の次年度のテーマはどのようにするか、事務局で予定はありますか。</p> <p>今回、「圏域ごとの居場所マップの作成」ということで方針を提案させていただきました。一旦、居場所に関するテーマはここで終了させていただき、マップ作成の進捗については改めて報告をさせていただこうと思っております。</p> <p>次年度の会議のテーマとしましては、「移動支援」について取り組みたいと考えております。これまでの高齢者サポートセンターの方々から寄せられている課題の状況や、本日コープみらいさんの「移動支援」に関する助成といった取り組みもあると伺いました。また同行支援や通院同行、通院介助、通院同行、リハビリ協議会の方でも啓発に取り組んでいただいていると。また、福祉公社の方からは、移動支援の仕組みがつかれないかといったご提案もいただきました。ケアマネジャーの皆さんからもやはり情報提供、居場所につながるための情報提供なんかも必要だと。なので居場所の情報があってもそこに実際に行くことができない足の確保というのが、かなり大きな課題になるんじゃないかなと思っております。移動の支援、居場所に繋がるための移動支援について、今後不足している資源の創出に向けて具体的にご提案いただいた団体もごございますので、他市の事例なども踏まえながら検討して参りたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>山下会長</p>	<p>説明質問等ありますか。</p> <p>まだ具体的にご説明いただいてませんが、移動支援なのか買い物支援なのか通院なのかももう少し機能別にしないと、もうちょっと焦点を絞るか市川市の移動全体を考えるのかという整理はした方がいいと思います。高齢者サポートセンターから、複数地域の実態をお知らせいただくような場面の中で、各団体からその取り組みについてご意見をいただくというような流れになるでしょうから、根回しというか調整もぜひお願いします。その他、何か今の移動のことでご意見ご質問ありますか。ケアマネジャーの立場で何かありますか。</p>
<p>大野委員</p>	<p>病院の場合は介護保険で適用になる部分があるので、通院のところは介</p>

大野委員	<p>護保険があれば少しはいいのかと思っています。あとは全国ニュースを見てもバスの運転手が足りないとか、市川も夕方の勤務の交代の時間にタクシーがつかまらないという状況があり、公共機関は私たちが考えることではないですけど課題になっていくのかなと思いました。</p>
山下会長	<p>都市計画とか街づくりの委員会でも同じ課題が出て、バスの路線の話とかそういう会議の方にも出て、賛成も反対もしたくない会議に出たことが何度かありますけど、そういうことに繋がるということも踏まえつつ、議論されることになりそうです。ありがとうございました。</p> <p>時間の制約もありますので、このぐらいで議題の4を閉じたいと思います。この後は事務局何かありますか。</p>
	<p style="text-align: center;">議題（5）その他</p>
事務局	<p>長時間にわたり、ありがとうございました。</p> <p>先ほど課長からご案内した通り、本年度の会議についてはこれで終了となります。来年度に向けて、また準備を進めまして、委員の皆様、それから高齢者サポートセンターの皆様にお力添えをいただきながら、この会議を深めていければと思います。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。</p>
山下会長	<p>第一層の協議体と第二層の協議体の役割ですとか、各自治体の申し立てをやらせていただいて、何となく気持ちに通じるのが3年くらいかかる。メンバーを変えずに3年、自治体の方は異動されますから、やり直しみたいなことが起こるんで、本当に地域づくりするんであれば年間3回とか限られた期間の中でそれを守るには、事務局の方と現場の方が顔が見える関係、メールの関係でもいいですけど、普段からの意見交換があつてこそその第一層の協議体があるので、そちらで少しお互いご配慮いただいて、私もメールは24時間見れますので、引き続きご協力いただきたいと思います。</p> <p>これを持ちまして、令和5年度第2回地域ケア推進会議を終了いたします。どうもありがとうございました。事務局の方からお願いします。</p>
事務局	<p>以上を持ちまして本日の会議を終了させていただきます。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>

(15時30分閉会)